

歩きたくなる温泉地を目指して、カーナビ情報の改善に取り組みました。

本研究会の会員温泉地は、歩きたくなる温泉地を目指して、かねてより交通社会実験などの取り組みを行ってきました。この度、最近一層身近になったカーナビゲーション（以下、「カーナビ」）に着目し、カーナビに搭載された道路情報をより正確なものにすることで、温泉街の混雑緩和やお客様へのスムーズなご案内につなげられないかと、大手地図メーカーの(株)ゼンリンとともに検討を行いました。

その結果、草津温泉と有馬温泉において、現状を整理した情報をゼンリンへ提供して新商品に反映することができました。この取り組みの流れを、以下にまとめました。

【草津温泉での取り組み】

観光地が抱える現状・課題

- ・カーナビが普及し、観光地への来訪者にとって、アクセス情報収集の重要な手段となっている。
- ・その一方で、カーナビの道路情報等が、
 - －途中に階段があるなど、車で通行できない
 - －急坂で狭いなど、安全面から危険である
 - －中心部を案内することで、混雑を引き起こす
 - －旅館の出入り口が正確に表示されない
 といった点から正確でない(好ましくない)場合があり、改善が必要である。

目指す解決策のイメージ

- ・カーナビで提供される情報を、観光地の現状に合った正確なものに更新したい。
- ・地元でも案内看板の適切な設置、マップの整備、旅館による案内方法の改善などの対応を進める。
- それによって、温泉街の混雑を緩和し、
「歩きたくなる観光地づくり」を推進したい！

- ・温泉街の中心にある湯畑周辺と細く入り組んだ街路では、繁忙期の週末などに混雑が発生しており、「歩きたくなる観光地」の実現に至っていない。
- ・混雑を引き起こしているのは、駐車場や宿泊先を探して迷っている来訪者(迷い車)であることが多い。
- ・その原因は、カーナビの道路情報や交通規制の情報が古い、旅館が宿泊客に案内するルートが混雑エリアを通るルートになっているといったこともある。

- ・まずは、カーナビで提供される情報を、現状に合った正確なものに更新したい。

(外部との連携による) 解決に向けたアクション案

【ステップ1:カーナビで提供されている情報の現状を把握し、地域の課題を伝える～(株)ゼンリンとの連携】

- ① 地域として改善してほしい点を整理する(例:実際にカーナビで動作確認をしてマップ[※]に課題を落とし込む、旅館組合会員へアンケート調査を行う、将来に向けた意向を議論する等)。
※注)作業に使う地図は、版權フリーのものを使用すること。
- ② ゼンリン担当者同行の現地調査にて、状況を伝える。
- ③ 行政(市町村)や旅館組合等が窓口となって状況を整理し、道路情報の修正を依頼する。
 - －車で通行できない道路や新規開通道路の加除
 - －不正確な道路規制の修正
 - －「探索案内道路(優先案内)」と「細街路」の変更
 - －旅館ホテルの出入り口情報(到着ポイント)、提携駐車場情報を集約する等

【ステップ2:地図・カーナビソフト・自動車等関連業界へ広く情報提供する～(財)日本デジタル道路地図協会(DRM)との連携】

- ① 【ステップ1】で整理した情報を(定期的に)DRMへ提供する(pdf化してメールで送信する等の方法にて)。
- ② 提供された情報は、DRMからカーナビ関連各社に一斉送信される。提供された情報の取捨選択は各社に任されるが、早ければ年に2回の新商品発売のタイミングで更新される。既存ソフトについては、3～5年間無償更新の商品も出てきている。

- ① 湯畑を中心とする温泉街の混雑緩和は、草津の長年の課題。2009年夏以降、新ブラッシュアップ事業「迷い車プロジェクト」にて議論を重ねる。
2010年2～3月 カーナビの動作確認
3月 旅館組合会員へ「案内ルート調査」を実施
自館へのカーナビ・ルートとお客様への案内ルートについて把握
- ② 7月 JTBFからゼンリンへ照会
9月 ゼンリン担当者同行の現地調査・旅館組合との意見交換会
- ③ 10月 旅館組合が以下の情報を白地図にまとめ(pdf化)、JTBF経由でゼンリンへ提供
 - －車で通行できない道路
 - －不正確な道路規制(一方通行)
 - －できれば案内を避けたい道路
 - －旅館の出入り口情報
 - －旅館の提携駐車場
 12月 新商品へ上記情報を反映

- ・旅館組合としてDRMへ提供したい情報は、すでに整理されている(pdf化済み)。
- ・町役場の道路担当セクションと情報内容を確認・共有のうえ、早い時期にDRMへ情報を提供したい。

■ゼンリンとの連携に至る経緯～草津での検討がきっかけ

草津温泉の中心部・湯畑周辺の交通混雑を緩和するためには、狭い温泉街に迷い込んでくるお客様の車を適切に誘導することが解決策の一つと考えられてきました。そのためには、お客様が頼りにしているカーナビから温泉街の正確な道路情報を伝えてほしい…ということで、まず最大手のゼンリンに草津の現状を伝えてアドバイスをいただくことにしました。



一方、ゼンリンは、これまで個別の宿泊施設などから要望や情報提供を受けることはあったものの、今回のように温泉地全体として道路情報のチェックを依頼されるのは初めてとのことでした。草津での現地調査には、現場で道路情報を収集するセクションと、その情報をもとに地図製作を行うセクション、それぞれの担当者が参加下さいました。

全国津々浦々に足を運んで地図を製作するゼンリンとしても、今回のように地域全体で道路情報が集約され、今後定期的に提供される仕組みができれば、より迅速な地図の精度向上につながるものと期待されています（こうした仕組みができた場合でも、調査員が現場に足を運ぶ態勢に変わりはありません）。

■(財)日本デジタル道路地図協会（DRM）とは

カーナビ関連企業（地図やカーナビソフト）は数多く、それぞれが商品開発にしのぎを削っています。温泉地としては、そうした企業へもれなく情報を発信したいものですが、(財)日本デジタル道路地図協会(DRM)へ連絡すると、カーナビ業界全体に情報を発信してくれます。

DRMは官民共用の全国デジタル道路地図データベースを作成しており、日本国内の全てのカーナビは、このデータベースを元に作成された道路地図を使用しています。また、カーナビによる交通安全と利用者の便宜向上のため、道路管理者からのカーナビ経路に関する要望等を、直接カーナビメーカーへ伝達しています。

温泉施設をカーナビに掲載してほしい、宿泊施設へのカーナビでの誘導が適切でないといった要望は、個々の施設からも受け付けていますが、地域全体の道路情報については、道路管理者を通じて要望を受付けています。

今回、歩きたくなる温泉地づくりの取り組みの一つとしてカーナビに着目しました。この他にも、

- ・日進月歩で進化するスマートフォンとの連動
- ・電気自動車の充電スタンドなど、ライフスタイルの変化によって必要とされる情報の増加
- ・カーナビとしての車内での利用に加えて、歩きながら必要とされる（歩行者向け）情報の充実

など、まだ多くの検討事項があります。

さらに温泉地自身が、カーナビの機能・情報に頼るだけでなく、

- ・温泉街にわかりやすい案内看板を整備する
- ・自らの地域で提供されているカーナビ情報を常にチェックし、DRM等へ情報提供（更新）する
- ・カーナビの効果的な活用法を研究して、お客様へ情報提供する（例：最短ルートでなくとも沿道景観が美しいといったより魅力的なルートを提示するために、「通過ポイント」を設定して迂回させるという方法があります）

といったことを検討する必要があります。

そして何より、お客様の回遊性を高めるような温泉街（商店街）の魅力づくりや景観形成にも、引き続き取り組むことが重要です。

※カーナビ情報の改善についてご関心がありましたら、研究会事務局（連絡先:info@onmachi.jp）までお問い合わせ下さい。

温泉まちづくり研究会とは…

北海道阿寒湖温泉、群馬県草津温泉、三重県鳥羽温泉、兵庫県有馬温泉、大分県由布院温泉の5つの温泉地と財日本交通公社（事務局）で構成されており、温泉地が抱える共通の課題を、温泉地の関係者とともに議論して解決の方向性を探り、その情報を広く発信して、国や自治体に提言するとともに、全国各地の温泉地の活性化に資することを目的としています。その運営は5つの温泉地からの年会費と財日本交通公社の観光文化振興基金によって行われています。主な活動として、定例研究会の開催、温泉地間での情報の共有、フォーラム・セミナーの開催、顧客満足度（CS）調査の実施などを行っています。

詳細は(財)日本交通公社のHP（http://www.jtb.or.jp/investigation/index.php?content_id=149）をご覧ください。